峡南教育事務所・峡南地域教育情報紙　　第１２２号　（２０１３年１０月）

かけはし

発行：峡南教育事務所地域教育支援担当　所在地：南巨摩郡富士川町鰍沢 771-2
TEL ：０５５６－２２－８１５４　FAX ：０５５６－２２－８１４４
HP でもご覧になれます　URL：http://www.pref.yamanashi.jp/kyoiku-mk/index.html

子育て支援リーダー・ステップアップ講座修了

山梨県教育庁社会教育課が山梨県立大学と連携して行っている「子育て支援リーダー・ステップアップ講座」に峡南地域から6名(市川三郷町4名・富士川町2名)の受講者が参加しました。この講座は、地域で子育て支援活動をしている方を対象にその中核を担う人材の育成を目指して実施されているもので、県立大学の飯田キャンパスを会場に、7月から10月までの間に9回の講座が開かれました。ファシリテーター(世話人)として県立大学の池田政子特任教授と高野牧子教授を迎え、講義とグループワークによる学習を重ねてきました。講義の主な内容は、①子育て支援の現在と課題、②家庭教育支援の技術、③子育てとDV、④子育て支援と音楽、⑤発達障害支援、⑥児童虐待、⑦これからの支援、の7つのテーマで行われ、この他に2回のグループ別自主学習会を加えて全9回のプログラム修了となります。このうちグループ別自主学習は、地域別に作られた7つのグループがそれぞれ地域の課題を探った上でその課題解決のための研究に取り組むことになっていましたが、最後の講義にあわせて行われた10月7日のグループ学習発表会ではきわめて貴重な成果が披露されました。

峡南地域の参加者による第6班は、「子どもの自立」を大きなテーマとして特に「お手伝い」ということについて焦点を絞って研究を進めました。まずはじめに子育て支援に関わる課題を話し合い、その中で不登校や高校中退者の増加など、子どもが自立してゆく過程での問題について注目しました。そして、その背景には自己肯定感を持てず自分の存在価値を見出せない子どもの増加があるのではないかという仮説に至り、それへの対処として、家庭における「お手伝い」の意義と価値を再考してみるという取り組みを進めることになりました。文献資料等の調査を重ねるとともに、富士川町及び市川三郷町の大人(30名)や子ども(156名)へインタビューによる意識調査を行い、その結果に基づいて家庭教育教材(『おてつだいカレンダー』と『手引き書』)を独自に作成、約300の子育て家庭に配布、各家庭に利用してもらった様子や効果をまとめました。グループ長の高室さんは、「子どもの自立という大きなテーマについて、『お手伝い』という身近な方法を通して子育て当事者に考えてもらうきっかけにできたことは意義があった。子どもの自立とそれに対する支援は、各家庭において大きなテーマであり、私たち子育て支援をする者の課題としていきたいと考える」と取り組みの成果について語っていました。

閉講式では、受講者に修了証が授与されました。受講者は、「初めての参加だったがすべてがとても勉強になり良かった、多くのことを学びこれから少しでも多くの家庭の支援ができればと思う、講座に通うことが自分をリフレッシュさせることになり気持ちを新たにした」と感想を述べていました。今回修了証を手にした方々は、各地域において子育て支援活動を推進していただくことになります。

平成25年度少年海洋道中

今年度の**「やまなし少年海洋道中」**は、峡南地域からの８人を含め総勢50人が参加して、伊豆諸島・八丈島にて８月１～９日の日程で無事行われました。

昭和63年から行われているこの事業は、物質的な豊かさや便利さとは別に、心の豊かさやたくましさを大自然の中で身に付けてもらうことを目的としています。恵まれた天候のもと８泊９日に及ぶ長期活動の中で、お互いをキャンプネームで呼び合う絆づくり、テント設営や野外生活技術の習得、日ごとのプログラムとしての「地域交流の日・海洋の日・サバイバルの日・自主企画の日」のそれぞれ主体的な企画立案・実施など、きわめて密度の濃い内容が展開されました。シュノーケリングでは、美しい魚と色鮮やかな海中の様子を間近で見ることができ、大きな歓声があがりました。また、２日間に渡ったサバイバル踏破では、班ごとのチームワークのもとビバーク（野外泊）によって島を歩き通し、忘れがたい体験となりました。峡南地域８人（男子３、女子５）の感想には、八丈島の雄大な自然を心から満喫するとともに、「いろいろなことが自分でできるようになった、人への感謝がしっかりできるようになった、友達が増えた、強くなれた、参加して『自分の道』を見つけることが出来た」などと記され、生き方や生活観が変わるような経験ができたことがうかがえました。参加したすべての中学生は、山梨ではできない様々な体験を通して、ひとり一人が大きく成長できたことと思います。

最終日すべての日程が終わると、お世話になった島の方々と沢山のお別れの紙テープが交わされる中、抱えきれないほどの思い出を胸に帰路につきました。

誇りある伝統文化の継承が大きな栄誉へ

富士川町　鰍沢中学校

鰍沢中学校(山下政巳校長)では、豊かな人間性の育成と地域の伝統文化の継承とを目ざし、**「鰍沢ばやし」**に取り組んでいます。30年以上続くこの活動は、現在１年生の総合的な学習の時間を使って進められていますが、今年４月の国民文化祭「山車巡行」においても堂々とした演奏(現２年生による)をするなど富士川町のお祭りなどにその成果を披露してきました。また、日頃指導にあたる地元保存会の中にも鰍沢中学校の卒業生がおり、まさに伝統と郷土の誇りの継承がなされています。このため、地域からも大きな役割の期待を集めてきました。この度、こうした取り組みが高く評価され、同校は**平成25年度「山人会賞」団体受賞**をされることになりました。周知の通り「山人会」は、山梨県下の文化事業助成と、青少年の創造力開発のための文化活動の育成助成、学術文化の向上発展に寄与することを目的に活動している権威ある団体で、その最高の栄誉に輝くことになったものです。10月８日には甲府の山梨文化会館で表彰式典が行われました。式後、甲府駅北口の山手御門前広場でお囃子の披露があり、その見事な演奏に、大きな拍手が寄せられました。

校長先生の受賞挨拶

ことぶき勧学院短信

山梨ことぶき勧学院の「地域講座」では、各教室とその所在する地域との関わりの中で、特別講義、施設訪問、異世代交流、地域貢献などが行われています。

この中で、峡南教室2年生は8月9日に「若者との交流」と題し、地域の高校生との異世代交流活動「**市川高校音楽部との交流会**」を行いました。市川高校音楽部(29人)の演奏は、『In die tribulationis(苦難の日に)』や『Over the rainbow(虹の彼方に=「オズの魔法使い」より)』など、8曲。演奏の合間には、高校生による発声講座が行われ、「歌は姿勢が大切、合唱に必要なものは笑顔と楽しく歌うこと、お腹から息をすることが大切」といった点について実技を交えて学ぶことができました。最後の曲「ふるさとの四季」では楽譜が配られ、高校生と勧学院生が一緒になって合唱することができました。部長さんから「気をつけるのは、姿勢と笑顔。楽しく歌うことが何よりです」と声がかかる中で大きな声で楽しそうに歌っていました。参加した勧学院生からは、「若い人の歌声がすばらしく、元気をいただきました」など感想が聞かれました。

シリーズ『峡南地域の祭事探訪』(24) ～身延町一色・石尊山奉納相撲～

守り継がれる伝統の奉納相撲

8月の下旬の日曜日(25日)に身延町一色の**「石尊神社祭典」**が開催されました。このお祭りは一色地区最大のお祭りで、地域の人々が多く集まり、神事(降神の儀、祝詞奏上、玉串奉奠、等)や献杯を行った後に、**子ども達の奉納相撲** をしています。

神事の様子

元来は、ここから1時間程登った山の上に石尊神社があり、昔は水や祭祀の道具を担ぎ上げ、そこで地域の人々がみな集まって神事や奉納相撲を行っていました。奉納相撲は、地区の人だけでなく近隣からも若者が集まり、大人も子どもも相撲をとっていました。地域の方の話では、かつては山の上にのぼりが立てられ、露店も出ていてかなりの賑わいを見せたようです。

間借りの社

もともと山の上にあった石尊神社が麓に下ろされたのは、今から40年ほど前のこと。地区の人々の手によってご神体や石灯籠など主なものがみな担ぎ降ろされ、集落の近くにある愛鷹神社の境内の一角に間借りするかたちで社を設けて、お祭りを行っているのだそうです。当時、担ぎ降ろしに参加した方は、ご神体や分解した石灯籠がとても重く山道の下りで足がよろけてしまった、と懐かしそうに語ってくれました。

愛鷹神社の石階段

石尊神社の石灯籠

石尊神社の社が納められる建物

社には、「奉納　石尊大権現　大天狗　小天狗」と書かれた板と、「安政五年八月大吉日　諸願成就…」と書かれた木製の刀2本のほか、木製の大刀1本が納められています。

今年の祭りには地域の方々30人以上が集まりました。神事の終了後、小学2年から中学1年までの5人の子どもによる奉納相撲が、境内に作られた特設土俵で行われ、元気よく相撲を取り終えた子ども達はみな口々に「楽しかった」、「毎年来ているけどとても面白い」と息を弾ませて語ってくれました。今では、地区の子どもが少なくなったため、近隣の他地域に住む親戚の子どもたちにも参加してもらい、奉納相撲を行っています。区長の近藤さんは、「地域の子どもが少なくなっているが、ここ一色地区で一番大きなお祭りなのでしっかり続けていきたい」と語っていました。

祭りが終わった後にはホタル会館(公民館)に場所を移し、地域の高齢者も交えて楽しい懇親会が開かれて大いに盛り上がりました。

峡南地域の県立学校紹介行事とインターンシップ事業の紹介

◆峡南地域の県立学校インターンシップ事業

県教育委員会では「やまなしの教育振興プラン」に基づき、重要な施策のひとつとして体系的なキャリア教育の充実を進めています。キャリア教育は、児童生徒が将来に夢や希望を抱いて学ぶ意欲を高めていけるようになるとともに、望ましい勤労観や職業観を身に付けられるようになるため、必要な資質・能力・態度を育んでいこうというものです。これには学校の取り組みだけでなく家庭や地域の幅広い協力と支援が欠かせないものであることはいうまでもありません。現在積極的に展開されている、小中学生のトライワーク事業や高校生のインターンシップにおいては、地域の事業者の方々に積極的な受け入れをしていただいており、大きな成果をあげています。ここでは、協力いただいている関係の皆様に厚く感謝申し上げ、夏休みに行われた峡南地域各高校のインターンシップの様子を一部紹介いたします。

県立峡南高校

峡南高校では、この夏 28 の事業所においてインターンシップを受入れていただきました。

◆湯之奥金山博物館（身延町）

夏休みには特に賑わう博物館。忙しくなる中で接客や案内などのほか、期間中に実施されたイベントの準備や運営補助に積極的に取り組みました。8月3日に開かれた恒例の「東西中高生交流砂金掘り大会」では、裏方で頑張った甲斐もあり、全国の強豪チーム相手に地元山梨県から参加した同じ峡南高校の先輩チームが見事優勝を果たし、貴重な経験に楽しい思い出の花が添えられました。

◆中央化学株式会社山梨工場（南部町）

食品トレーなどを製造している地元創業の国内大手企業におけるインターンシップ。ここでは、徹底されている衛生安全体制や品質管理体制について学ぶ一方、機械による高度な自動化システムの充実の様子に新たな認識を持つことができました。また、製造業に関わる上での様々な責任の大きさや意義について実体験をとおして学ぶことができました。

県立増穂商業高校

増穂商業高校では、７月下旬に 50 を超える事業所の協力をいただきました。

◆JA 西八代（市川三郷町）

本店にて JA の業務について学んだ後、近隣の共選所に赴き最盛期を迎えていた桃の出荷作業を行いました。農作物一つひとつにかけられた手間や、流通の実際の様子を学ぶ貴重な体験となりました。参加した生徒は作業の面白さと大変さをあわせて学べたとの感想を話してくれました。

◆峡南消防本部北部消防署（市川三郷町）

男子2名で参加した2日間の消防署のインターンシップは、初日の救急救命講習と救助訓練、2日目の防火服着用・消防放水訓練、地域の防災訓練補助と、密度の濃いスケジュールで行われました。酸素ボンベやマスクを実際に使用して命がけの厳しさを学ぶとともに、その高い使命感に心を打たれたとのことです。

◆峡南地域の県立学校紹介行事

夏季休業を利用して、学校説明会やオープンスクールなども実施されました。その様子をいくつか紹介します。

「if」オープンスクール　7月6日

市川高校(橘田多喜夫校長)のオープンスクールは、体育館にて学校と入試の説明、学校紹介映像視聴を行うとともに、班に分かれて在校生の授業を参観しました。その後、希望によっていくつかのコースで部活動の体験や学校見学も実施。在校生が班ごとの校内案内ツアーを先導して授業の様子を解説するなど、参加した中学生に学校の特徴を様々な角度から見てもらえるような工夫が随所に見られました。多方面で活躍が目立つ**部活動**や、特色ある取り組みを重ねている**英語科**の紹介は印象深く、学校全体が積極的に意欲を持って日常的な取り組みをしている様子が参加者に強く刻まれました。

身延高校学校説明会　7月27日

身延高校(佐野純一校長)の学校説明会は身延町総合文化会館ホールにて行われ、校長挨拶では、**進学型総合学科高校**として、創立90周年を越えて新たな挑戦を続けている同校の様子が強調されました。生徒会長の歓迎の言葉では、意欲的な生徒の学校生活が述べられ、小規模校ならではの個に応じたアットホームで充実した様子がうかがえました。学校の説明や進路に関する説明では、積極的に進めている企業訪問の事例が示され、一人ひとりの将来と生き方を考えさせた上での取り組みが生徒を本気にさせていると、OBゲストの体験談を交えて提示されました。2年次以降には**選択科目群による4つのグループ**が用意されていることが説明され、進路に対する手厚い指導体制も示されました。

峡南高校オープンスクール　8月10日

峡南高校(矢野博文校長)のオープンスクールでは、工業高校らしいものづくりの楽しさがよく伝わってくる授業見学が行われました。今年度の新入生から工業科3学科に再編され、入学についても一括募集に変更された同校では、新しい体制とそれが目ざす学校の方向性に関して丁寧な説明が行われました。**電子機械科**では旋盤やフライス盤などの工作機械やロボット実習の様子が紹介されました、県内唯一の**クラフト科**では木材や和紙、金属加工によるものづくりの様子が示され、特に伝統の紙漉実習には多くの参加者の関心が集っていました。そして**土木システム科**ではパソコンを使った土木構造部の製図作業とそのもととなる機械による測量実習が行われ、それぞれ専門的で豊かな技術習得を目ざす様子が見学できました。

「いじめ」問題から見えるもの ～私たちは「何を」問題にすべきか～

山梨大学教育人間科学部 学校教育講座
准教授 高橋 英児 氏

講演会の様子（平成25年7月9日 身延町総合文化会館）

(3)大人には何ができるのか （承前）

④いじめをめぐる学校への「支援」をすること

◆学校内外の大人のつながりを広げる 学校と教員を支える体制や、地域とのつながりを作る取組を拡大する必要がある。その際、学校を批判的に見るのではなく、学校も努力しており教員も頑張っている、という視点を持つことが重要である。対立ではなく、支援の意識を持つことで、より有効な理解を深めることや協力体制を作ることができる。「子どもは失敗や過ちを繰り返しながら成長するもの」という視点を持つことも不可欠。子どもの過ちが取り返しのつかないものにならないよう、いかに支援ができるかが地域社会にも問われている。こうした支援は場合によっては長い時間がかかることにもなり、失敗を受入れるような辛抱強さや寛容さが必要になる。「何か悪いことするのではないか」という疑いのまなざしではなく、「失敗しながらもきっと成長していくだろう」という見方を常に持つべきである。特に子どもの反抗的であったり不真面目であったりする態度については、その中に何らかの異なるメッセージが込められている可能性を考えることが重要である。

◆学校を取り巻くシステムの課題 兵庫県川西市では、1998(平成10)年に制定された条例に基づき翌年から「川西市子どもの人権オンブズパーソン」を設置した。オンブズパーソン3名(大学教授2、弁護士1)が委嘱され、その他相談員など専門スタッフを擁して、積極的な相談受付と課題解決に取り組んでいる。特徴的なのは、相談事項について、子どもの話しに率直に耳を傾けるということと、「学校は対応に十分に頑張っている」との前提のもと、誰かを悪者にするような犯人捜しにとらわれずに、「どうしたら状況を改善できるか」を追求する姿勢を取っていることで、親でも教員でもない立場(第3の目)による公正で有効な改善を目ざすという取組は注目される。

◆地域ネットワークの中の学校 成果をあげている実践では、学校内の教員の連携だけでなく、地域ネットワークの存在が重要な役割を果たしている場合が少なくない。例えば虐待家庭における問題では、地域で当該家庭を支援していく体制がとれるようになっている。子どもと親の関係が変化するとともに、子どもの学校での様子も徐々に変わっていく。また、学校はタテとヨコのみの関係社会であり、それに対して地域の人間関係は、「ナナメの関係」ともいえる多様な価値観が存在するとの指摘もある。学校で荒れている子どもが、地域では優しい子として受け止められているというように、学校的価値観とは異なる視線や人間関係の形成を図ることも重要である。

人に対する否定的なマイナス評価は、マイナスの反応しか招かない、つまり学校的価値観で一方的指導を繰り返すのみでは子どもの望ましい成長は限られてしまう、ということもある。地域の人々は豊かな人生経験の中で多様な価値観を持って子どもを認めることができるのではないか、そういった信頼のまなざしを向ける大人に対しては、子どもは正しく応えようとするのではないかと思われる。

さらに、問題のある家庭もそうでない家庭も、いずれも何らかの子育ての悩みは存在するであろうし、学校を離れた、多様な価値観で語り合える地域における親の立場の相互理解が子どもを変えていく可能性も大きいといえる。

(4)地域としてできることは何か （まとめにかえて）

◆いじめ問題の中にある子どもたちに対して 最後に、いじめている子、いじめられている子の双方に対して次のようなメッセージを伝えたい。「**あなたたちのせいではない**」、あるいは「**君らをそうさせてしまう現実がある、その行為自体はだめだが、だからといって君たちを決して排除しない**」と。

ある関係者が述べたことが印象深かった。「いじめる側の中にある悪と闘うのではなく、それを生み出しているものと闘うのが本来の仕事となるべきであり、いじめはその人の心の弱さの問題だけではなく、いろいろな生き辛さの中で生じるものであるため、われわれ大人が真に闘うべきは生き辛さが生じる社会や地域の環境なのである」。まさにわれわれ大人には、社会や地域の生き辛さにどのように対処していくべきかという重い課題がつきつけられているといえよう。

◆子どもに関わる大人として 失敗し、裏切られて傷つくことがあったとしても、信頼して精一杯働きかけてくれた大人がいたという事実が子どもにとっては必ずプラスになる。問題行動をとる子どもに対して、その子を取り巻く現実や辛さに耳を傾け、その子自身をしっかり受け止めることは、「逃げないで自分のことを見てくれる大人がいる」という信頼の気持ちにつながり、本人が自分の問題と向き合う契機を生じさせると思われる。ぜひ多くの大人に対して、子どもたちにとって身近で大切な大人になっていただくことをお願いしたい。

それには多様な価値観と強い忍耐力が必要となろうが、自分たちが子どもだった頃を思い出し、自分たちが歩んできた道に子どもたちは今まさにあるのだ、と思い巡らすことで子どもに対し柔らかなまなざしを向けていただきたい。

ご清聴に心から感謝する。 （了）

※この連載は講演録をもとに峡南教育事務所担当がまとめました。

平成25年度峡南地域「異校種連携セミナー」のお知らせ

今年度の異校種連携セミナー(峡南地推協・峡南教育事務所主催)は、防災に関しての交流の在り方について考えます。心配される災害について確かな認識を持つとともに、いかに子どもたちの安全を確保するかについて一緒に考えます。内容は、昨年度研究推進指定校として成果をあげた市川南小学校・市川南中学校の実践発表と、山梨県で防災ボランティアを中心的に進めている小林奈都夫氏(山梨県PTA協議会長)の講演です。関係の方々及び異校種交流や防災などに関心のある方々の多くの参加をお待ちしております。

◆日 時 平成25年11月26日(火) 受付13:00～ 開会13:30～ （終了予定16:20）
◆会 場 身延町総合文化会館2階会議室
◆連絡先 峡南教育事務所地域教育支援担当
TEL 0556-22-8154 ※参加申込みは11月12日(火)までにお願いします。